

東北運輸局の取組について

バリアフリー教室について

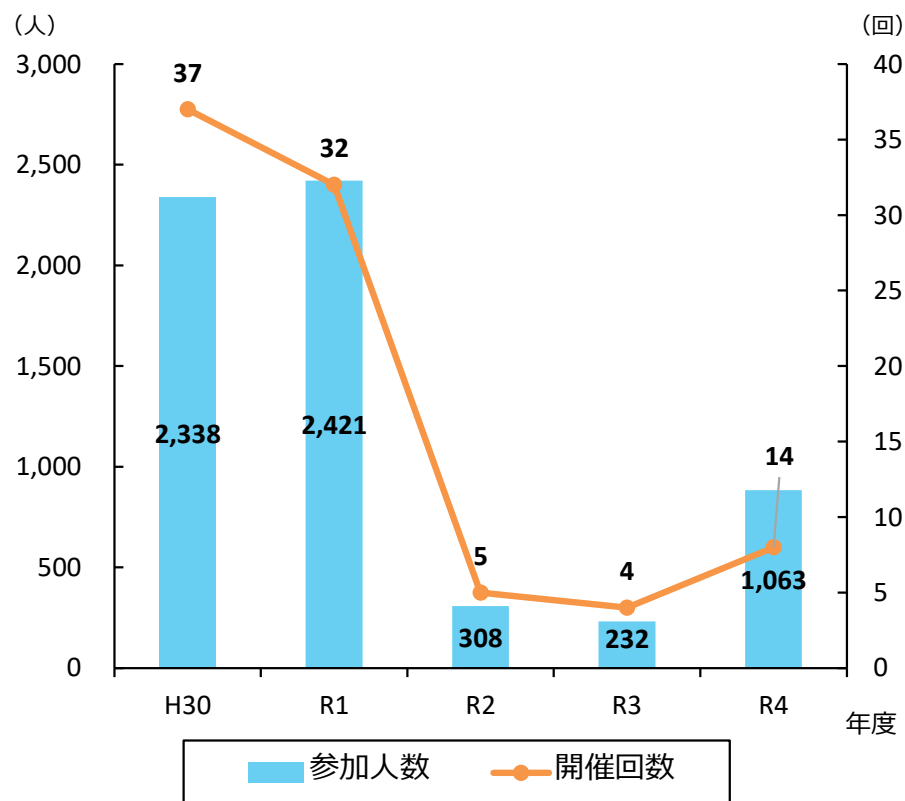
バリアフリー教室

高齢者、障害者等が安心して日常生活や社会生活が出来るようにするためには、施設整備（ハード面）だけでなく、高齢者、障害者等の困難を「**自らの問題**」として認識し、心のバリアを取り除き、その社会参加に積極的に協力する「心のバリアフリー」が重要です。

このため、管内各地において「**バリアフリー教室**」を開催し、疑似体験、介助体験、バリアフリー化された施設の体験等をしていただく場を提供しています。

また、地域が行っている、学校、地方公共団体、NPO、ボランティア団体、障害者団体、福祉施設など多様な主体が、お互いに連携しながら同様の取り組みや活動に対して、情報提供等の支援を行っています。

過去5年間の開催実績



過去の主な開催場所と参加者

開催県	開催場所	参加者
青森県	弘南バス(株)弘前営業所	小学4年生
岩手県	奥州文化会館Zホール	バス、タクシー事業者
	楽天生命パーク宮城	小学4年生ほか
宮城県	仙台市内小学校	小学3年生
	仙台市内小学校	小学4年生
秋田県	秋田市内小学校	小学4年生
	秋田市内小学校	小学4年生
山形県	JR天童駅内	小学5年生
福島県	奥飯坂穴原温泉 吉川屋	飯坂温泉旅館共同組合関係者

バリアフリー教室

バリアフリー教室の様子



体験グッズ

高齢者疑似体験（小学生用・大人用どちらか）、視覚障害者疑似体験それぞれ20セットまで使用可能。

高齢者疑似体験セット



視覚障害者疑似体験用
白杖とアイマスク



バリアフリー教室の開催状況

車椅子乗降体験ほか

【開催概要】

実施日：令和4年9月8日（木）
 場 所：楽天生命パーク宮城
 参加者：仙台市立原町小学校4年生 89名
 主 催：東北運輸局
 協 力：株式会社楽天野球団
 仙台市社会福祉協議会
 仙台バリアフリーツアーセンター

コロナ禍の中断を挟み、3年ぶりに楽天生命パーク宮城でバリアフリー教室を開催しました。車椅子乗降体験の他に、バリアフリーについての講話やポッチャ体験を実施しました。当日は雨が降っている中、原町小学校の皆さんには積極的に取り組んでいる様子が見受けられました。

【主な感想】

- ・『車椅子に乗ったことが初めてで、不便さや大変さが分かった』
- ・『講話を聞いて、バリアフリーについて学ぶことができた』
- ・『これからは困っている人を見かけたら積極的に声をかけたい』



高齢者疑似体験ほか

【開催概要】

実施日：令和4年10月13日（木）
 場 所：山交バス株式会社本社営業所
 山形市立第四小学校
 参加者：小学校5年生 32名
 主 催：山形運輸支局
 協 力：山交バス株式会社
 山形市社会福祉協議会

高齢者疑似・介助体験や車椅子乗降体験を通じて、小学生に多様な人のことを思いやる「心のバリアフリー」の育成を図る目的でバリアフリー教室が開催されました。疑似体験の他にも、山形市が実施しているバス乗車の際に使用するICカード（チェリカ）を使用しての実車体験も行われました。

【主な感想】

- ・『バリアフリーについて実際に体験して深く学べた』
- ・『車椅子でバスに乗るときは大変なことが分かった』
- ・『高齢者体験をしてみて、高齢者の大変さや不便さを知ることができた』



オンラインでの講話、高齢者疑似体験

【開催概要】

実施日：令和4年7月14日（木）講話
 10月27日（木）疑似体験
 場 所：オンライン、東日本国際大学附属昌平中学校
 参加者：中学校1年生 27名
 主 催：東北運輸局

「東日本国際大学附属昌平中学校」様よりキャリア学習の一環として出前講座の依頼があり、令和4年7月にオンラインで講話を実施しました。出前講座の依頼を受け、オンライン方式でのバリアフリー教室を実施したのは東北運輸局にとって初となります。講話だけでなく、令和4年10月には「東日本国際大学附属昌平中学校」に伺い、高齢者疑似・介助体験を実施しました。

【主な感想】

- ・『身近に存在するバリアフリーについて知ることができた』
- ・『貴重な体験ができたので、これを機にいろいろな観点でバリアフリーを学んでいきたい』



バリアフリー教室の開催状況

仙台バリアフリーツアーセンターの皆様にご協力をいただき、当局の若手職員に対して『合理的配慮と心のバリアフリー』というテーマで、講話とグループディスカッションを行っていただきました。普段の業務では聞くことができない障害当事者からの体験談を聴くことで、今後の業務に生かしていただければ幸いです。また、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン形式のみでの開催となりましたが、今年度は対面とオンライン併用で開催することができ、講師の皆様にも来局していただきました。

【開催概要】

実施日：令和5年2月13日（月）

場 所：東北運輸局2階専用会議室（オンライン併用）

参加者：係員クラスの若手職員16名（その他聴講者4名）

主 催：東北運輸局

協 力：特定非営利活動法人 仙台バリアフリーツアーセンター

【内容】

①講話（『合理的配慮と心のバリアフリー』について

法律の説明や講師の方々が実際に体験した事例等）

②グループディスカッション（講師と自由討議を主なテーマとして実施）

【参加職員からの感想】

- ・障害を持つ方のお話を聞く機会が今までなく、車椅子での生活で不便な点や苦勞を知ることができたので今後の業務に活かしていきたいと思いました。
- ・障害のある方(車椅子利用者)の視点でお話を聞いて、ほんの少しの段差や坂などが障壁になっていることが分かりました。障壁があるだけで終わらず、自分にできることはないか考え行動していきたいです。
- ・講師の方の経験談をお聞きして、社会にはまだまだ壁があることを感じました。これからの業務で様々な方からのご意見を大切に、自分の行動で誰かの役に立てればと改めて意識することができました。大変有意義なバリアフリー教室でした。



講話の様子



グループディスカッションの様子

音響式信号機(押ボタン式)の設置見学について

音響式信号機(押ボタン式)の設置について

移動等円滑化評価会議東北分科会委員で盲導犬ユーザーの丸山あずさ様より、「警察署へ設置要望をしていた『音響式信号機(押ボタン式)』が設置されることとなった」旨情報提供をいただきました。

令和5年3月16日(木)、警察署のご担当者様が丸山様立ち会いの下、信号機の音声調整をされるということで、その様子をバリアフリー推進課員が見学させていただきました。

●音響式信号機とは

目の不自由な方が、道路の横断開始から横断終了まで、安全に横断できるよう、歩行者用信号機に併設されたスピーカーから誘導音を出すもの。

※「ピヨピヨ」「カッコー」と鳴るものです。



●押ボタンとは

1) 音響式信号機を作動させるため、信号柱に設置された“押ボタン箱(箱形のセンサー)”のこと。

2) “設定時間中”、目の不自由な方が押ボタン箱を押すと「音声案内」され、その後、音響式信号機に切り替わります。

3) また、目の不自由な方を“押ボタン箱”の位置まで案内するため、“設定時間中”は常に「位置表示音」が鳴り続けます。

※「音声案内」とは、《信号は赤です。青になりました。》等音声で案内するものです。

※「位置表示音」とは、《ブブッ、ブブッ》と鳴って押ボタン箱の位置を案内するものです。



●調整の様子

初めに、“押ボタン箱”の位置を知らせるための「位置表示音」の調整を行っていました。「位置表示音」が、小さい設定では、車が走行中の場合、まったく聞こえませんでした。

次に、信号が青になった際の、「ピヨピヨ」「カッコー」と鳴る音の調整を行っていましたが、こちらも車が走行中は聞こえづらく、実際に利用する方が聞こえるかを確認しながら音声を調整することは、大変重要なことであると感じました。



《丸山様へ音響式信号機設置について感想をお伺いしました》

音響式信号機が設置されて約1ヶ月が経ちました。設置に関しましては、宮城県警察署交通課の迅速な対応に心から感謝致します。

近隣の皆様の御協力を頂き、朝7時から夜8時まで音響式信号機が稼動するという体制が整いました。信号機までの点字ブロックの延長および押ボタンのタッチパネルも大きなものが取り付けられ、合理的配慮がなされたものと感謝しております。

実際に使用してみて感じたことは「安全に横断歩道を渡れるので、とても心強い!!」ということです。今まではたとえ盲導犬がいても【信号が赤なのか青なのか】が分からず困る場面がありました。(→実は盲導犬は信号機の色が分かりません…。)現在は音響式信号機があることで、心にも余裕が生まれ、今まで以上に落ち着いて横断歩道を渡ることができるようになりました。

こうして実際に困っている当事者が声をあげることが、大きな一歩に繋がるのだと実感した次第です。関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。

これからも盲導犬と共に、安心安全を常に意識し生活しようと思います。今後共、皆様の御協力を宜しくお願い致します。

丸山様からは、「音響式信号機が設置されることについて、目の不自由な方のみではなく、高齢の方からも『音声が鳴るようになると、渡れる時間が分かりやすくなり安心だ』という声も聞いている」とのお話を伺いました。今回設置された信号機の付近には、病院や高齢者施設、保育園などもあり、近隣の皆様にとって、利便性や安全性が向上するのではないかと感じました。